

---

[成果情報名] 飼料用米生産と家畜給与の採算性

[要約] 現行の飼料用米の助成制度や価格体系では、飼料用米は7ha規模以上で生産費を確保でき、飼料用米を給与した養豚は豚1頭当たり飼料費が270円、精肉1kg当たり生産費が5.2円増加する。飼料用米を給与した豚肉を一般の豚肉より高価格に評価する消費者は3割に止まる。

[キーワード] 飼料用米、生産費、養豚、飼料費、消費者評価

[担当部署] 研究企画部・知的財産活用課

[連絡先] 092-924-2986

[対象作物] 飼料作物・豚

[専門項目] 経営

[成果分類] 行政対応

---

[背景・ねらい]

米の生産調整が拡大するなかで、農業者戸別所得補償制度の戦略作物として飼料用米の生産が推進され、水田の有効利用と畜産農家への安定した飼料供給が期待されている。しかし、飼料用米生産の採算性や飼料用米を給与した畜産物生産費への影響、さらに消費者の評価等、米を家畜飼料として利用した場合の経済性は不明な部分が多い。

ここでは飼料用米先進モデル事業（福岡県飼料用米推進協議会：平成21、22年度）での飼料用米生産、及び養豚での飼料用米給与を素材に、飼料用米の採算性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 大規模稲作経営（作付面積7ha以上）における飼料用米1kg当たり生産費は、単収630kg（玄米）で150円程度である。10a当たりの生産費97,800円は、品代（20,200円）と水田活用の所得補償交付金（80,000円）で賄える（図1）。
2. トウモロコシの代替として飼料用米を10%配合（トウモロコシの20%）した飼料の製造費は、慣行の配合飼料よりt当たり1,400円高く、畜産農家の購入価格では1,500円高くなる（図2）。
3. 上記配合飼料を養豚の肥育後期（約60日間）に給与すると、肥育豚1頭の後期肥育飼料費は5,910円から6,180円へ270円（4.5%）、肥育期飼料費では9,440円から9,710円（2.9%）増加する。飼料費の増加分をすべて精肉生産費に転嫁すると、精肉1kg当たり生産費は5.2円高くなる（図2）。
4. 飼料用米を給与した豚肉に対し、一般の豚肉に比べ同価格に評価する消費者は7割であり、高価格に評価する消費者は3割に止まる（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 飼料用米の作付や家畜飼料としての利用を推進する場合の資料として活用できる。

[具体的データ]

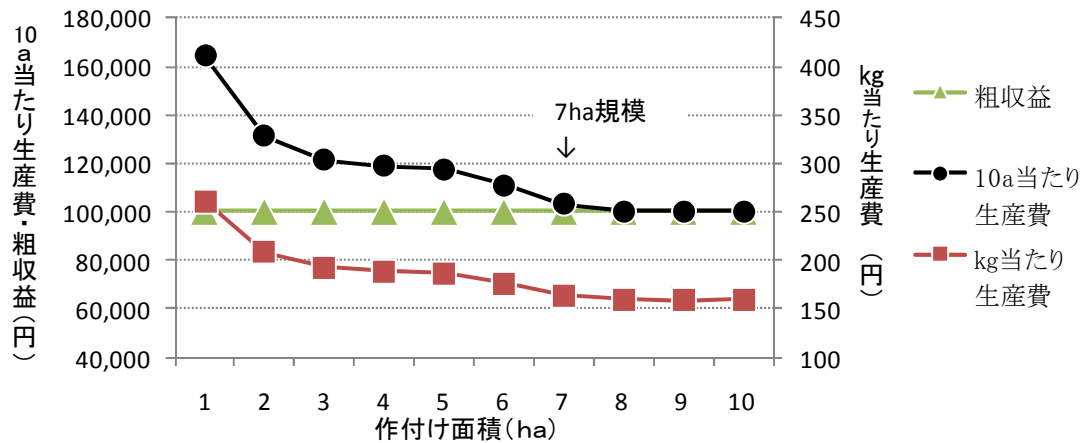


図1 飼料用米の規模別生産費

注) 飼料用米先進モデル事業平成 21、22 年度の飼料用米生産実証試験をもとに、収量を平均収量 630kg に修正して作成。粗収益は品代 20,160 円と水田活用の戦略作物助成 80,000 円の合計 100,160 円。

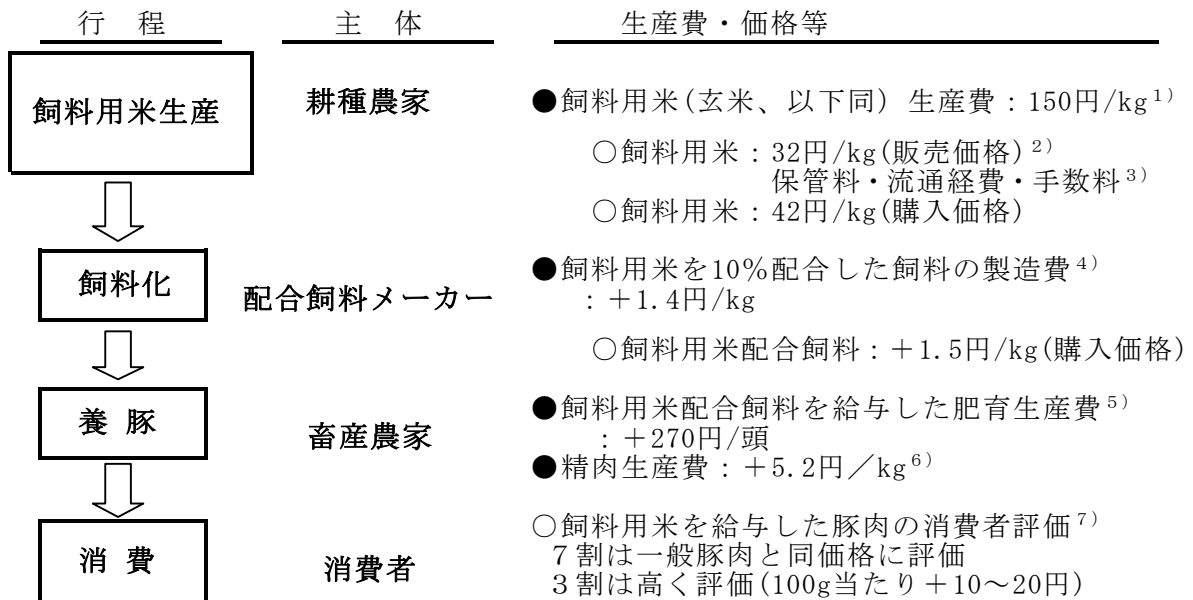


図2 飼料用米を巡る各工程ごとの費用・価格

注) ●は生産費、製造費。○は価格

- 飼料用米先進モデル事業平成 21、22 年度の飼料用米生産実証試験の平均値で、水稲作付 7ha 以上の 3 戸平均。単収 630kg、10a 当たり生産費 97,800 円。飼料用米の 10a 当たり収入は、品代 20,160 円と水田活用の所得補償交付金の戦略作物助成 80,000 円、畜産農家と連携契約を結んだ場合は耕畜連携助成 13,000 円の計 113,160 円。
- モデル事業での平成 22 年産価格。
- 保管料・流通経費・手数料は、約 7~10 円。ここでは 10 円で試算。
- 養豚の後期肥育用飼料を対象に、トウモロコシの代替として飼料用米を全体の 10% (トウモロコシの 20%) を配合。比較時点でのトウモロコシ価格は 28 円/kg。
- モデル事業での飼料用米給与実証農家 1 戸。後期肥育期 60 日間に 180kg 給与。
- 生体 (108kg) から精肉 (52kg) の比率を 48% で算出。
- 生活協同組合 2 店舗でのコメ豚フェア開催時の聞き取りアンケート調査。計 4 回、延べ 306 名。

[その他]

研究課題名: 集落営農による低コスト飼料用米生産システムの構築  
 予算区分: 経常  
 研究期間: 平成 22 年度  
 研究担当者: 中原秀人、手嶋洋司